

令和 9 年度

人間生活学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント

小論文（学内推薦）（100点）

令和 8 年 9 月 5 日

高知県立大学大学院

小論文（栄養・生活学領域）

問 日本の健康増進の取り組みの一つである健康日本 21（第三次）では、栄養・食生活に関連する目標の中に、食塩、野菜、および果物摂取量の目標値が掲げられている。これらの項目の中から1つ選び、現在の壮年期（40～64 歳）の日本人の栄養・食事摂取状況を踏まえて、摂取量に関する課題を記述するとともに、そのような課題が起こると考えられる背景と対策を論じなさい。

【出題の意図】

日本の健康政策や栄養・食事摂取状況に関する知識や理解力を問うとともに、現在の日本人の栄養に関する健康課題について、論理的思考力および判断力を問う。同時に、文章表現力を問うものである。

【解答のポイント】

以下の点を評価のポイントとする。

1. 現在の日本の栄養に関する健康政策や、日本人の壮年期（40～64 歳）を対象とした栄養・食事摂取状況を把握し、論述できていること。
2. 1を踏まえて、背景を考察し、課題に対する対策を論理的に説明できていること。

小論文（文化学領域）

問 人はなぜ他者の物語を読むのか。具体例を挙げながら論じなさい。

【出題の意図】

人は文学作品、歴史資料、宗教的テキスト、映像作品、SNS 上の語りなどを通して、自らとは異なる他者の経験や世界観に触れる。しかし、他者を理解することは本当に可能なのか、あるいは他者の経験を自分の理解の枠組みに回収してしまう危険はないのかという問いも存在する。

本問では、「他者の物語を読む」という行為を手がかりに、他者理解の可能性と限界について考察する能力を問う。文化学・文学・歴史学・宗教学・メディア研究など、受験者自身の関心領域から自由に論じてよい。また論述を通して、論理的に記述する力、文章表現力、知識の応用力も問うものである。

【解答のポイント】

以下の点を評価のポイントとする。

1. 「他者の物語を読む」ことの意味を考察していること。
2. 具体例を用いて、論理的かつ批判的に論じていること。